

月刊ダンゲロス

2011 9



魔人 10 選「小竹」
「第二回ダンゲロス最大トーナメント」
プレイバック
二つ名ダンゲロス3プレイバック
アカシャ攻略戦
ダンジョン&ダンゲロス追加カード



戦闘破壊学園
ダンゲロス

2011年2月2日
講談社より発売!!

この先
DANGEROUS!
命の保証なし!

ダンゲロス

cagami kyosuke

第3回 講談社BOX新人賞
Talents受賞作

戦闘破壊学園
ダンゲロス
架神恭介
Illustration 左



この先、
DANGEROUS!
命の保証なし!!

そう、この魔人種子、一見するとあんなに可愛らしいが、
その実、組織的な作戦を備えた人を陥れる魔人セツナ
を伴い、おどろおどろしいものなると言われた。その中のセツナ
は、オプ、セツナである。
おどろおどろしいセツナが、

希望学園
新校則提案

- 非望貞、非処女者以下
- 廊下を走った者は以下の
- 掃除をサボった者・服装が乱れた者
- 遅刻者・レイプ犯罪 (加害者、被害者とも)

UNIVERSITY BOX
POWERS BOX

【著者】架神恭介 【イラスト】左
【価格】1785円(税込)
【ISBN】978-4-06-283759-0
【発行】講談社

「この先、DANGEROUS！ 命の保証なし！」

魔人どもの巣窟、私立希望崎学園——通称「戦闘破壊学園ダンゲロス」にて、生徒会・番長グループによる恐るべき最終戦争「ダンゲロス・ハルマゲドン」が幕を開ける——！

全身から異臭を放つ怪力ロリっ娘番長、邪賢王ヒロシマに相対するは、「学園総死刑化計画」を企む恐怖の生徒会長ト正義卓也！そして、両派の殲滅を目論み召喚された次元の旅人『転校生』。

性別転換能力者、両性院男女を中心に三者の思惑は乱りに乱れ、魔人能力は百花繚乱の様相を示す。愛と正義と変態性欲渦巻く混沌の戦場に、華開く一つの奇跡とは——。

全国書店にて好評発売中！！



目次

- 1、ダンゲロスとは
- 2、魔人とは
- 3、絶対に知っておきたい魔人10選「小竹」
- 4、第二回ダンゲロス最大トーナメント
- 5、二つ名ダンゲロス3プレイバック
- 6、アカシャ攻略戦
- 7、ダンジョン&ダンゲロス追加カード
- 8、表紙の魔人

ダンゲロスとは

『戦闘破壊学園ダンゲロス』

・第三次ダンゲロス・ハルマゲドン ストーリー

小説家の菊地某によって創設された私立希望崎学園では、当然のように魔人たちが跋扈し、血で血を洗う不毛な戦いを繰り返していた。

そして、生徒会とそれに敵対する番長グループの緊張状態は日に日に高まり、校長によるデタントの動きも空しく、ついに二大勢力の休戦協定は破棄され、ここに第三次ダンゲロス・ハルマゲドンが勃発したのである。

事態を憂慮した数学教師長谷部は、魔人どもの戦いに終止符を打つべく、異界から『転校生』を召喚する。転校生に与えられた使命は、生徒会、ならびに番長グループの殲滅であった。

- ・「戦闘破壊学園ダンゲロス」はインターネット上で行うアナログのオンラインゲームです。
- ・各プレイヤーは超常的な力を持つ「魔人」を一人一キャラクター創作し、「生徒会」「番長グループ」のに陣営に分かれて戦います。
- ・ゲーム性は一言で言えば「自由に駒の作れる将棋」。魔人将棋とも呼ばれます。
- ・各魔人の特殊能力はイメージーションの赴くまま自由に作れます。ただし、強い能力ほど発動に成功する確率が下がります。
- ・各陣営とも約一週間の戦術会議を行い、ゲーム当日に互いの戦術を競い合わせます。
- ・一週間かけて仲間たちと練り上げた最強の戦術が見事に成功した瞬間、もしくは、相手の戦術の前に為す術もなく瓦解していく喜怒哀楽を楽しむ戦略シミュレーションゲームです。
- ・ゲームは不定期で開催されます。キャラクター募集が始まったら、きみも参加してみよう！いつも妄想しているキャラ設定や「おれのかんがえた特殊能力」を披露するチャンスだ！
- ・なお、ダンゲロスの公式設定は「魔人の持つ特殊能力とは『自己の認識を他者に強制する能力』」という一点のみです。世界観やキャラクターも自分の好きなように解釈できます。「そうだと思った人にとっては、それが公式設定」がダンゲロスです。これにより人のキャラクターや世界観を自由に改変して、小説、イラスト、ゲームなどの二次創作を誰でも作ることができます。商用・非商用は問いません。現在、ダンゲロスの二次創作小説として講談社から『戦闘破壊学園ダンゲロス』（著・架神恭介）が発売されています。
- ・ただし、自由度の高さの反面、これは自分のキャラクターが他人にいじられるということでもあります。自分のキャラクターにすごく愛着があり、誰にも触らせたくない！という人には参加をオススメできません。参加希望者は参加時に他者に二次創作されることを許諾する必要があります。

本文：架神恭介 (<http://www.pixiv.net/member.php?id=1149979>)

魔人とは

『魔人』

- ・魔人とは、人間の域を超えた身体能力や技術を持ち、また固有の超能力（特殊能力）を備えた存在です。
- ・彼らは生まれた時からそのような力を持っているわけではなく、何らかのきっかけによって魔人に覚醒します。

覚醒者の傾向

- ・日頃から妄想ばかりしている人や、目立ちたがり屋、「オレは他のヤツラとは違う特別な人間なんだ」と思い込んでいる人などが魔人になりやすく、幼児期や少年期、特に中学二年生頃は魔人覚醒の可能性が高くなります。そのため魔人の持つエネルギーのことを、専門家は「中二力（ちゅうにりょく）」と呼んでいます。
- ・幼児期の子供は、手からエネルギー波を出したりする漫画の主人公などに憧れることが多く、覚醒した場合は特殊能力も攻撃的なものとなる傾向にあります。一方、中学～高校生頃に覚醒した魔人は、男女を問わず性的な能力を得る者が出てきます。
- ・一般的な中学、高校では、1学年に2～3人の魔人が含まれます（治安の良い学校における不良の割合と同程度）。ただし、魔人は差別の対象になりうるため、特定の学校以外では自分が魔人であることを秘密にしておくのが普通です。
- ・自分の能力に無自覚であったり、その力の詳細を知らない者もあり、同年代の不特定の他者が作り出す集合的無意識によって魔人となるものもいとされています。
- ・また、ごく稀にはありますが、魔人として覚醒しやすい血統を持つ人間も存在します。

特殊能力

- ・魔人の持つ特殊能力とは、「自己の認識を他者に強制する能力」であり、もっと端的に言うならば、「自分の妄想を他人に強制する力」のことです（ゲーム的には「プレイヤーの妄想（した超能力）を他者（他プレイヤー/ゲームキーパー/ゲーム全体）に強制する」と考えて下さい）。
- ・魔人同士の戦いとは互いの妄想のぶつけあいには他なりません。
- ・特殊能力は魔人にとって自己のアイデンティティに等しいものです。そのため、思春期の魔人たちは「自分らしさ」を表現するために能力を行使しようとする傾向があり、理由なき暴力、理由なき殺人を行う魔人も珍しくはありません。
- ・そのため、魔人は社会的には犯罪予備軍として認識されており、周囲からは差別的な視線を送られています。
- ・魔人の突発的犯罪、すなわち、「キレル魔人」は社会問題となっており、老人などは「ワシら

の若い頃は村ぐるみで魔人を教育しとったから、今の若い魔人のように凶悪犯罪を犯すことはなかったんじゃない」などと言いますが、実際の魔人の犯罪率は以前に比べ減少傾向にあります。

差別

- ・魔人は差別の対象となることがあります。
- ・そのため、理性的な者は自分が覚醒しても能力を見せびらかしたりはせず、ひた隠しにします（シークレット）。
- ・ただし、そのような理性的な魔人は、調子に乗ってすぐに能力をひけらかす魔人に比べて中二力が弱く、能力や肉体の強さで他の魔人より劣る傾向にあります。

死ぬまで魔人

- ・覚醒した者はその後元に戻ることは無いため、若者だけでなく老年の魔人も多くいます。
- ・彼らは雇用差別や住居差別を受けることが多く、その鬱憤からやはり突発的犯罪を犯しがちです。犯罪者にならずとも、アル中になったり、ホームレスになったりする者も少なくありません。
- ・中には魔人の力を使って事業などに成功し、巨万の富や権力を得ている者もいますが、彼らは一般人から妬まれ、ユダヤ人や客家のように扱われます。
- ・魔人の覚醒には遺伝要因もあるらしく、成功した魔人の一族郎党が集まり、財閥のような形を取ることもあります。これら一族では子や孫が魔人へと覚醒することを厭わず、むしろ覚醒を促すような教育を施すケースもあり、「児童虐待ではないか？」と社会問題になっています。
- ・また、スポーツをする者の中には、強い相手との出会いを繰り返すことで魔人としての力が飛躍的に増大するケースがあるようです。
- ・なお、魔人の中には、大人になってから自分の特殊能力を「恥ずかしくて仕方ない」と思うようになる者もあり、場合によっては、鬱病や強迫神経症へと発展します。カウンセリングに行くと、「それもあなたの個性なのよ」と慰められます。
- ・その一方で、「ウオオ、オレの能力マジかっけえ！」と、一生自分に酔い続けている魔人もおり、彼らは周囲の差別など屁とも思わず、一生、明るく楽しく楽天的に生きています。

魔人警察官

- ・警察も魔人を採用して、魔人の凶悪犯罪に対処しています。
- ・魔人警察官は、魔人が就職できる数少ない採用口であり、非常に倍率が高いです。
- ・また、他の魔人に比べ、一般人から受ける差別も比較的少なくてすみます。その代わりに、魔人警察官は他の魔人に対する差別感情が強く、犯罪を犯した魔人への取調べは苛烈を極め、しばしば社会問題となります。
- ・魔人警察官の他には魔人機動隊もあり、1970年代初頭、過激派魔人学生が起こした山荘立てこ

もり事件に出動したことで有名になりました。自衛隊にも魔人のみを集めて構成された魔人中隊があり、魔人の一個小隊は通常の大隊相当の戦力にあると言われています。

・なお、魔人自衛官は通常の二階級上の給与を得られますが、佐官へは昇進できません（魔人中隊の指揮官は一般人の一佐が務めます）。学園外での魔人の犯罪やテロ行為に対しては、これら魔人警察官等が対策に当たります。

治外法権地区

・学園内での犯罪に警察権力は介入できません。

・1960年代に活発化した魔人学生による学生運動の結果、1970年代初頭に「学園自治法」が制定されたためです。これにより、全国の小・中・高・大学は校則を唯一の法律とする治外法権特区となり、学園内の治安は自己責任となりました。

・学園側は魔人体育教師などを雇い学園の治安維持に努めましたが、魔人学生たちは番長グループを組織してこれに対抗。多くの学園では番長グループが勝利し、学園を暴力で支配したため、校則は形骸化しました。

・1990年以降は、全国の手付けられない魔人学生たちを私立希望崎学園他、いくつかの学園に集めることで、多くの学園の治安は回復して来ています。こういった魔人の受け入れを行う学校は、一般的に魔人学園と呼ばれます。

・しかし、それでも魔人の突発的な覚醒は防ぎようがなく、魔人学生による大量殺人は年に十数件報告され、ワイドショーなどで面白おかしく取り上げられています。

・なお、希望崎学園は魔人の占める割合が高いため、学園内での魔人への差別感情も少なく、治安はともかくとして魔人の精神衛生上はむしろ外部世界よりも良好です。

転校生

・転校生とは、何らかの条件により魔人から進化する突然変異体ですが、詳しい発生原因などは解明されていません。

・もともと持っていた魔人としての能力は消失し、代わりにまったく異なるロジックの能力を身に着けています。

・身体的にも、能力的にも魔人を凌駕する恐るべき存在です。

・彼らは契約によって召喚され、さまざまな次元を渡り歩きます。

本文：ダンゲロスwikiより転載 (<http://www34.atwiki.jp/hellowd/pages/117.html>)



●小竹

第3次ダンゲロスハルマゲドン時の生徒会長。つまり、ダンゲロス史上初めての生徒会長である。

陰険なキャラ設定。魔人とは思えない貧相な能力。厳しい制約。微妙なキャラ性能など数々の負の面を持っていたが、広範囲ダメージ能力を持つ一発逆転可能なシークレットキャラだったため、劣勢であった生徒会の期待を一心に背負い、生徒会長として抜擢された。

そして、ゲームでは能力の発動条件を満たすことすら出来ず惨めに殺された。

そんな彼も日本人の判官贔屓気性からか、イラストが妙に格好良く描かれていたからか、SS内では実力者として書かれることが多く、死んだのは影武者であるとされ伝説上の英雄として神格化された。「逆襲の小竹」ではキャンペーン名に名前が使われるほどの大きな扱いを受け、同ゲーム内でもメンバーから絶大な支持を受けたが、小竹軍に集まった能力者たちはどれもこれ

も微妙な性能の連中ばかりであった。一部に熱狂的な信者を持ち、後に木蔭サツキと結婚、多くの子宝を授かったとされるがその後の消息は不明。

なお、『ガス漏れ』という彼の特殊能力の性質上、ガス栓をひねることは能力発動の大前提であり、彼が何よりも恐れているのはオール電化である。「逆襲の小竹」において彼が一軍を率いて立ち上がったのも、ひとえにオール電化の影響と言われている。また、遙か遠い未来では「ガス漏れを司る神」として小竹教により崇められており、この頃になると小竹が元は人間（魔人）であったことは忘れ去られている。「右の頬をぶたれたら、腹いせにガス栓をひねりなさい」の教えが有名。

2011年9月現在、ツイッターにてbotを持つ唯一のダンゲロスキャラクターであり（@KOTAKESAMA_BOT）、『シークレットガス爆発』という名の専用BGM（※）まで存在することから、その衰えぬ人気が伺われる。

※ http://0006.x0.to/dd_bgm/

本文：ヌガー、架神恭介

イラスト：カレーのes

第二回ダンゲロス最大トーナメント1（まめ）

最近の本戦形式の開催ラッシュの合間を縫って真面目に馬鹿馬鹿しくサクッと楽しみましょう。という意図で開催され、改めて番外編形式のダンゲロスの需要の高さを証明した第二回最大トーナメント。優勝候補と目された強豪が思わぬ苦戦を強いられ、あるいは星を取りこぼす中、順当に強さを魅せつけ見事優勝に輝いた桂あJ素は説得力のある戦闘能力もちろん、アクの強さやダンゲロスらしさも申し分なく、栄冠にふさわしい魔人だったのではないのでしょうか。

その桂あJ素自身の準決勝ふくめ、第二回最大トーナメントではGK間の協議では決着がつかず、参加者による投票に決着がゆだねられた試合がありました。中でも二回戦第八試合『はじまりのモヒカン VS 園城寺ミハル』は投票結果も互角でドローとなる好試合となりました。しかし、好試合であると同時に、すっきりしない決着となったのも事実です。第二回最大トーナメントの記事を引き受けるに当たり、総括的な記事よりもある程度の絞った内容のほうが読みやすいのではないか？という考えもあり、今回は決着のつかなかったカードに再度論理のメスを入れてみたいと思います。

1. 一回戦第四試合『江田島平八郎忠勝 VS 雁葉津波』

今回記事を書くにあたって特定の試合にのみ焦点を当てたのには、参加キャラ33名のデータを逐次記載するのは無理があり、読む側の負担も大きいというものがあります。取り上げる試合数を少なくすればその問題は解決されるのでは？という目論見です。

まずは江田島平八郎忠勝のデータをみていきたいと思います。

■江田島平八郎忠勝

■性別：男 ■学年：教師 ■所持武器：股間の螺旋槍

■攻撃力：30 ■防御力：3 ■体力：35 ■精神力：5 ■ FS「漢気」：20

■移動力：4

■ZOC：あり

■他キャラクターのZOC：無視しない

■所持DP：2

■特殊能力

特殊能力なし

■キャラクター説明：

魔人再生法の施行に合わせて就任した、希望崎学園新校長。

全身を機械的な甲冑に覆われており、その正体はモビルスーツなのではという噂

も実しやかに囁かれる。

東日本最強と謳われ、人間でありながら転校生相当の扱いを受けている。

松平 (元)首相とは旧知の間柄らしい。

「俺が希望崎学園校長、江田島平八郎である！」

このキャラクターは「魁！ダンゲロス」に登場した転校生の一人で、特殊能力こそありませんが、圧倒的なステータス値を誇り、特に攻撃力30は圧倒的です。攻撃力20のキャラと比較するのなら、メラゾーマとメラミぐらいの差はあると言ってよいでしょう。なにより、元ネタである男塾のイメージが強烈で字面からして「なんでもあり」です。

続いて雁葉津波です。

■雁葉津波

■ライフ：3 ■精神力：3

■経験点：0

■設定

クラス委員長。性格は真面目。

勉強は好きだがクラス行事はもっと大好き。

欲しいものは身長。

■魔人能力『アフターバーナー』

手足の先から指向性のある爆炎を撃つ。反動で自分はすっ飛び。

攻撃と高速移動を兼ね備えた能力である。

爆炎の威力は通常時はフルスロットルのスクーターの激突程度だが、

感情が昂ぶると破壊力と推進力が増す（それに伴って高速移動の制御は難しくなる）

■成功要素

「身体スキル」：【反射神経 Lv.5】【童顔 Lv.1】

「知的スキル」：【応急手当 Lv.1】【情熱 Lv.2】

「固有スキル」：【アフターバーナー [魔]】【委員長 Lv.4】

「オプション」：【伊達眼鏡 Lv.1】【爆薬 Lv.3】

このキャラクターは「学園魔法陣Aのダンゲロス第二話：東西野球合戦III」に登場したプレイヤーキャラです。記事を書くにあたって協力をお願いした米ットさんによれば、野生の黒豹をタッチ死（アウト）で再起不能にする攻撃速度と破壊力を持つとのこと。また、野球の真似すらする気が無かった面子の中で唯一まともに野球をするなど、委員長設定にたがわぬ真面目っ子です。

キャラクターのスペックでは江田島優勢というのが私と米ツトさんの見解でした。というのも、雁葉津波の攻撃力は所詮黒豹を殺しきれない程度なのです。たとえばキラーパンサーのHPなどわずか69で、メラミなら一発です。予選を勝ち上がってきたようにヒット&アウェイで2撃目を狙うにしても、江田島は機動力も通常の魔人の2倍あり、スクーター程度の推進力では逃げ切るのは難しいと考えられます。ですが、このような「両者が正面からぶつかった場合の結果予測」をGKが協議した結果は両者互角で投票による判定なのです。記事を書く側としても、この方向の考察から結論を出そうとしているわけではありません。新しい着想が必要となります。

脳筋とは筋力に関係のない事でも筋力で解決し、また筋力以外では決して屈服させられない論理能力だと言えます。これは「北斗の拳」のラオウ、さらには海と時代を超え「スーパーマン」などが代表的です。江田島の元ネタにもこのような特性が強く見られ、仮に元ネタのイメージを戦闘結果に考慮することが認められるのなら、江田島は江田島以外の誰にも負けることはありません。これは当日も問題となり、元ネタのイメージは補正として考慮しないという裁定になったと記憶しています。個人的にはこの裁定は疑問です。キャラの作意として、元ネタのイメージが前提にあり、そのようなキャラクター作成法はダンゲロスで広く採用・評価されているからです。江田島属性は認められるべきだったのではないのでしょうか。

では、江田島属性が認められるのならいよいよ津波は江田島に勝てないのでしょうか。メタ的に江田島をとらえた場合、津波には全く新しい攻略法が発生します。江田島は強すぎるが故に、話を破綻させないために適当なタイミングでの退場が求められるのです。これは脳筋という論理能力に対する「都合制約」ともいうべき弱点です。トーナメント表から、津波戦がまさにそのタイミングであると証明されれば江田島はこのカードで「話の都合上」消えることとなります。そして、江田島退場のタイミングはこの津波戦がベスト。2回戦、3回戦の相手が江田島と同じ転校生の格を持っており、同格の相手にねじり負けた場合は言い訳をつけるのが非常に難しいのです。江田島が江田島の格とイメージを守るためには1回戦で負け、転校生たちとの対決を避けるほかありません。

肝心の試合の内容ですが、思うに「津波が炎の魔球を100球投げ、江田島は全弾ホームランに出来れば勝ち、1球でもスタンドに届かなければ負け」のようなわけのわからない対決が江田島主導で始まり、最後の1球で見事に見事津波が江田島を打ち取る。といった展開になるのではないのでしょうか。

—江田島平八郎忠勝●—○雁葉津波

第二回ダンゲロス最大トーナメント2（まめ）

2. 二回戦第八試合『はじまりのモヒカン VS 園城寺ミハル』

先の試合の再検討ではあまりにもメタ的な解釈に走りすぎ詭弁くさくなっただけだと思います。その手の詭弁に拒否反応を示す人は少数派ではないことは理解しているつもりなので、これから取り上げる『はじまりのモヒカン VS 園城寺ミハル』ではできる限り論理的に勝敗を導きたいと考えています。この試合は大会唯一ドロ判定の難解な試合となりました。

■はじまりのモヒカン

■性別：無性

■所持アイテム：なし

■体力：1 ■攻撃：1 ■体術：1 ■運：6 ■神々しさ：6

■特殊能力

能力名：モヒカン保存則

能力を使用すると自身が装備品「不滅のモヒカン」に変化する。

「不滅のモヒカン」は同マスで行動を消費すると装備できる。

「不滅のモヒカン」を装備しているユニットのコントロール権はモヒカン陣営に移る。

「不滅のモヒカン」を装備中のユニットが破壊された時、「不滅のモヒカン」は破壊したユニットに強制的に装備される。

GK注：「不滅のモヒカン」はカツラのようなもの、能力使用前の「はじまりのモヒカン」は

なぜか生命を持っているカツラのようなものと認識。また、能力使用後も生命は持ち続ける

ことにします。ある程度の破壊などで死亡扱いとします。死亡すると能力も解除されます。

■キャラクター説明

モヒカンそのもの。

理想的な毛並みが見るのものを魅了する。

「希望先学園祭」に投稿されたプレイヤーキャラクター。いかにも馬鹿馬鹿しい能力名が実にダンゲロスらしい洗脳ユニットです。運とFSの神々しさがコスト値で、どちらも多少無茶な主張がまかり通ってしまいそんな強力な万能要素となります。モヒカンザコ勢力に所属。

■キャラクター名：園城寺ミハル

■性別：女

■所持アイテム：なし

■体力 2 ■精神 3 ■攻撃 4 ■防御 6 ■歌 1

■特殊能力

『マーメイド・チョコレイト』

超強力瞬間接着剤の作成・使用。

結合状態の解除は本人がそうと念じることによって可能。

論理能力なので、一般的に有効な物理的手段による解除は困難。

能力の持続中、周囲には仄かに柑橘系の香りが漂う。

なにもない空中へ煉瓦をくっつけたりといった無茶なことは出来ない。

■こんなふうに使えんじゃないかな

・壁登り、天井這い

・任意のタイミングで接着状態を解除することにより、罾発動

・敵がエリアに踏み入ったときに「 GK：教室には、マーメイドのような香りが残っている……」みたいなアナウンスをしてもらうことで、無駄に思考時間消費してくれないかなー

・意味も無く味方の能力と併用してみる（香りをくっつけておく）

・「常に柑橘系の香り」は「ベレー帽を格好良くキメておくために能力を使ってくっつけている」から。解除しちゃえば無臭。

■キャラ説明

赤いベレー帽と柑橘系の香水がトレードマーク。

外見はおっとり大人しい雰囲気ではあるが、その実かなりの前線派。美大出身、フランスへの留学経験アリ。

対するミハルも高い身体能力と、地味ながら応用範囲の広い能力を所持する模範的な強キャラクターです。一回戦では「手も触れたくない変態」を相手に、口と鼻に接着剤を流し込むという残虐な応用技で勝利を収めています。柑橘系の香りといういかにもフレーバーな制約もダンゲロスらしい。「ダンゲロス1969」に投稿されたプレイヤーキャラで、魔人公安に所属しています。

結論から先に言ってしまうと、この戦いは園城寺ミハルの勝利となります。

当日、園城寺とモヒカンの戦いは、「園城寺はモヒカンカツラを被るのか？」「被った場合、ベレー帽に遮られ洗脳効果は発揮されないのではないか？」「洗脳されるのはベレー帽なのか、

園城寺なのか？」など、能力の成否や相性を中心に議論が重ねられました。双方の主張には強い説得力があり、私などは投票を放棄するほど難解な判定となりました。しかし、実はそれらの議論の結論は彼らの勝敗を決するにあたってさして重要ではなかったのです。それ一本で勝ちあがってきたモヒカンの洗脳能力の成否が勝敗に関係しない理由。それはメンタリティーや組織の構造、構成員。そのどれを取り上げてモヒカンと魔人公安の間には、まったく違いがないからです。

魔人公安とモヒカン組織は同じ。どちらも背後に強大な権力があり、統率された思想と行動原理を持った集団組織です。そもそも、自らモヒカンを称しているモヒカン組織など無く、それぞれ「拳王軍」や「聖帝十字軍」などを名乗り、モヒカンザコの集まりというのは周囲から評価にすぎません。市民に「マジ鬼畜」と恐れられる魔人公安（ダンゲロス1969のゲーム中で魔人公安の連中は敵対組織が引くほどの暴虐の限りを尽くしています）は世紀末を30年ほど先取りしたモヒカンメンタリティーの体現者だと言ってよいでしょう。まして、公安には「モヒカン一家」として有名な真野一族のひとりである真野五郎が所属しており、園城寺家も後に園城寺ウララ（希望先学園祭）というモヒカンザコを輩出しています。もはや魔人公安はあらゆる角度からも手遅れなぐらいモヒカン組織なのです。1969の時代には「はじまりのモヒカン」は魔人公安が保管していた可能性を考えてもいいぐらいではないでしょうか。

モヒカンを被ったキャラクターは確かに所属陣営がモヒカン勢力になり、あるいは思考形態もモヒカナイズされてしまうのかもしれませんが、始めからモヒカン組織に組みし、モヒカンの思考形態を持つと予想される（一回戦の対戦相手である架神恭介にとった残虐な殺害方法など）園城寺ミハルはモヒカンを被る前と後でまったく変化が起きません。それどころか、はじまりのモヒカンに戴冠したことで組織内での地位を高めたと言っても良いでしょう。勝利というより昇進です。この判定を覆すには魔人公安のモヒカン性を否定しなくてははいけませんが、その証明は困難を極めそうです。

—はじまりのモヒカン●—○園城寺ミハル

第二回ダンゲロス最大トーナメント3（まめ）

3. エキシビジョン『架神恭介 VS ゴーテ伯爵』

最後は本番で実現しなかった幻のカード。魔のブロックと呼ばれたDブロックでも特にわけのわからないキャラクターと評された「架神恭介」と「ゴーテ伯爵」のエキシビジョンマッチです。対決に当たり、ダンゲロスのお父さんであり、架神恭介の作者である架神さんに協力していただきました。

■キャラクター名 架神恭介

■性別 男

■持ち物 セーラー服（着用中）

■ステータス [各5まで、合計12まで]

攻撃力：5 防御力：0 反応：4 精神：3

■特殊能力 『インフィニット女子高生』 発動率100%

世界の全てが女子高生になる。おじさんもおばさんも赤ちゃんもわんこも車もバイクもゴミ箱も野に咲く一輪の花も消しカスもうんこも痛いも痒いも苦痛も嘆きも概念も思考も抽象も世界も宇宙も全てが女子高生と化し、全ての女子高生は全ての女子高生とふれあい全ての女子高生の胸の中に抱かれる。

.....つまり、能力対象者（主に自分、その他自分に関わる者）の認識において、全てのものに「女子高生」のアイデアが宿る（元の性質は残る）。

この時に宿る「女子高生」はアイデア界に存在する理想の女子高生とする。

傍から見分には特に何の変化もないので、ただキチガイがフラフラしてるだけにしか見えない。

例)

虫歯の場合：「女子高生の歯が女子高生の痛みに襲われてるよお！！ わあい、女子高生のレズSMだあ！！！」

線を見つめた場合：「無限の女子高生の点が繋がって、じじじ女子高生の線にいいいい！！！」

射精した場合：「はあ.....はあ.....。じよ、女子高生の中から、こんなにたくさんの女子高生が出てきて.....。

女子高生のティッシュが女子高生の液体でぐちゃぐちゃの女子高生だよおおお！！！！！！」

効果：アイデア『女子高生』付与

範囲・対象：自分、仲間、調教対象、襲撃者（自分に関わる者全て /ただし、襲撃者などは調教パートが終わり自分との接触を絶った時点で解除される）

時間：永続

タイミング：ゲーム開始時

■キャラクター設定

30歳、作家。

彼は決して変態ではない。

彼はただ一途に愛しているだけなのだ。

女子高生のレズをー。

ダンゲロスアブノーマルにおいて変態王の不名誉に輝いたキャラクター？です。特殊能力に関しては何を言っているのかさっぱりわからないので説明は割愛。

■キャラクター名：ゴート伯爵

■性別：無性

■所持武器：口髭

■能力タイプ：シークレット

■攻撃力：0 ■防御力：0 ■体力：0 ■精神力：20 ■FS「 gaate」：0

■特殊能力 『 joker Å』

[発動率85% 成功率100%]

ドラフトのババ。

体力0を面白がって取ってくれたら、相手チームのリザーバー候補になって迷惑をかけてやるぞ。

最近の戦闘力至上主義のキャラメイクに対するアンチテーゼ。

計算式

【効果】ドラフト終了後、相手チームに行く

【制約】無し

【FS】 0

GK独断 85%

■キャラクター説明

世界一の紳士。頭がおかしすぎて、逆にこの世の誰よりも精神的に安定しているぞ。

フリーザ細胞を持っていないので、宇宙空間では生存できない。

インフレダングロスに投稿されたプレイヤーキャラ。ゲームが始まる前から味方を裏切って敵陣営に行くという何がしたいのか謎なキャラクター。最大トーナメントにおいては決定されたことを反対にする論理能力として扱いました。

この両者は順調に勝ち上がればDブロックの決勝で戦うはずでした。しかし、架神恭介は当たり前のように1回戦で敗北し、ゴータ伯爵に至ってはGK裁定により不戦敗。まずはこの不戦敗の裁定を覆さなければ戦いが始まりません。

ゴータ伯爵はその能力で「最大トーナメントの代表に選ばれなかった」という決定に反発し、最大トーナメントにエントリーされました。それに対してGKの裁定は「エントリーされてるんだから、エントリーしていないのでは？」というものでした。

しかし、このように連続して反対から反対へと移動しては、伯爵は何一つ行動が出来ません。そこで、後付にはなりますが、伯爵は他者の選択に自発的に反発する論理能力だと解釈することにします。伯爵は代表に選ばれなかったことに反発し、自分の意思でエントリーキャラとなったのだから、これに対し彼の能力は発動しません。

伯爵不戦敗問題は強引ではありますが片が付きました。互いに直接戦闘能力が無い以上、能力の相性が勝敗を分ける事になります。一見馬鹿馬鹿しい両者の能力は意外なほどの高度にしてスケールの大きな激戦となりました。

まず、架神恭介の能力により、ゴータ伯爵は女子高生のアイデアに書き換えられます。それに反発し、ゴータ伯爵は女子高生の反対の存在への変化を試みます。しかし、架神恭介の認識では世界のすべては女子高生であり、女子高生の反対の存在もまた女子高生なのです。伯爵のアイデンティティーに逃げ場はないかに思われました。

しかし、そこで伯爵はすべての反対である「無」に転じます。この世のすべてが女子高生であるのなら、その反対に位置するものは「無」一。「無」とは「北斗神拳」をして究極奥義の極意と目される極地であり、「封神演技」に登場する仙術「宮鎮抱一」は自らを無に転ずる、崑崙の教主原始天尊ですらATB（あいつら大した棒立ちだぜ）よりほか無かった究極の大技です。

最強の「無」となったゴータ伯爵。勝負は決まったかに見えたが、架神恭介はその「無」すらも女子高生として愛し、性欲まみれの悟りの境地で虚空に射精するのです。それはそれとして、ゴータ伯爵はその能力ごと消滅したのだから、勝者は架神恭介。

—架神恭介○—●ゴータ伯爵

二つ名ダンゲロス3プレイバック

†概要

二つ名ダンゲロスは各々のプレイヤーの中二力を競い合う祭典である。

プレイヤーはまず命名パートでお題に沿った魔人の名前を考える。

そこで採用された名前に二つ名メーカー(<http://pha22.net/name2/>)を用いて二つ名を授ける。

次に設定パートでその二つ名に合うように特殊能力を持つ中二なキャラクターを作成し、GK（審判）が選評を行う。

メインGKは叛逆立体（ハウリングサン）のやまいち、

サブGKは氷結迷宮（プラスチックフリーズ）のあやまだと奇禍淘汰（カタストロフィトリック）のもやいが務めた。

†お題1（あやまだ）『漢字の文字数>振り仮名の文字数の名前』

++命名パート

いきなり難解なお題である。

実際、苦戦したプレイヤーが多かったようで、

金翅雀（ひわ）といった既存の漢字の文字数>振り仮名の文字数単語を用いる名前（金翅雀田 歌紗音（ひわだかさね））がある一方で、

日付ネタ（二月二十九日閏（うるうじゅん））や漢字分解ネタ（名張 糸言糸心（なばりれん））、自作当て字（強襲決戦亜天使 九十七式青嵐・乙（うりえるうらがーん））なども見られた。

自作当て字として特に目を引いたのが「真野風火水土（まのせかい）」である。

四大元素で「せかい」と読ませるセンスと投稿者である五重幻影さんが普段から使っている一族をぶっこんでくる胆力、そして、

204 : 武神童話（シンメトリーリアクター）のフユキ : 2011/08/06(土) 22:34:28

「しんのせかい」ですよ？ 完璧じゃないですか

210 : 五重幻影（ペンタゴンミラージュ）・ペンさん : 2011/08/06(土) 22:35:49

>>204

「しんの」は一族設定で結構重要なのでようやく気づいてもらえてうれしいです。

という中二的なやりとりが決め手となり、「真野風火水土（まの せかい）」が採用された。

++設定パート

真野風火水土の二つ名は戦闘賭博（アトミックバーサーカー）となった。

本名、二つ名ともに大規模な能力者を想像させやすく、実際に提出された設定も広範囲能力者や最強格の能力者、真野家の始祖or最強といったものが多かった。

また名前の連想から元素使いや四行ネタもよく見られた。

前回の二つ名ダンゲロス2で優勝した珪素さんの設定が選出されたが、かがみさんやイトさんの設定もGK陣3人ともから高い評価を受けた。

（普段すぐ女子高生に走るかがみさんがまともな設定だったためプレイヤーたちに心配されていた。）

12：鋭角空虚（ソリッドイグジット）の珪素：2011/08/06(土) 23:04:05

【本名】真野風火水土

【二つ名】戦闘賭博（アトミックバーサーカー）

【キャラクター説明】

世界の紛争地帯をトランクひとつで渡り歩く、国籍不明の黒コートの男。

顔の上半分は、サイズの合わない帽子に隠され見えない。

時代を飛んで数百年に渡って確認されているが、その年齢も定かではない。

かつて『真野一族』と呼ばれる能力者集団の創設にも関わったが、長い年月を経た今は、その名も一族の中では忘れられた存在である。

しかし彼は、悠久の生の中で唯一心を許せた仲間の記録として、自らの名には今も『真野』の名を冠している。

【特殊能力】

真野風火水土は、災害である。

台風、噴火、洪水、地震などの災害とは全く異なる、

人類が発生したその時から蔓延する新種の災害——『戦争』。

彼の向かう地では、人々は様々な理由こそあれ、

まるで自殺に向かうようにして熱狂的な戦闘の衝動へと身を捧げ、

真野風火水土一人を残した、根こそぎの焦土のみがそこに残る。

米軍は『核をも超える兵器』である真野風火水土を今も追撃し続けている。

最後まで立っているだけで周囲の全てを皆殺しにする最悪の能力だが、真野風火水土自身は人類の繁栄にも絶滅にも興味はない。

単なる気紛れで国へと居を移し、戦場を移す。故に『戦闘賭博（アトミックバーサーカー）』。

真野一族の創設メンバーと出会ったのは、第2次大戦中だという。

21：黒猫禁忌（スティッキーダークネス）のイト：2011/08/06(土) 23:11:49

【本名】真野風火水土

【二つ名】戦闘賭博（アトミックバーサーカー）

【キャラクター説明】

かつて「それ」はお互いを「木火土金水」と呼び、呼ばれていた。

「それ」はひとりであり、ふたりであり、その世界のすべてでもあった。

あるひ「裂け目」から「彼」が迷い込んできたとき、その調和はひずみをきたした

。

彼は観測する者——人間であった。

「それ」は観察者という異物の存在により、はじめてみずからというものを意識した。

彼は「それ」へ質問を投げ掛けた。それは「それ」に相違、他者、境界の概念を芽生えさせた。

やがてやってきた「彼」の寿命の潰えるそのときには、もう「それ」は「それ」ではなく、一人ではなく二人という在り方を選ぶことしか出来ないようになっていた。

「風火水土」はもういちどひとつの「それ」へ戻ることを望んだが、「金」は、もっと「彼」のような者——人間たちと触れ合うことを望み、この「世界」を出ていくことを宣言した。

それでも「風火水土」は独り「世界」へ留まろうとしたが、中心核である「金」を失ってしまった「風火水土」はもはや強くはあっても野放図な力を制御することが出来ず、その「世界」は崩壊した。

そして「風火水土」もまた、「金」に遅れること二百五十五年（地球時間）、地上へと降り立った。

【特殊能力】

「戦闘賭博（アトミックバーサーカー）」

「金」が出て行こうとするその間にその背中へと向けて「風火水土」が持ち掛けた、ひとつの賭け。

『もし「金」が一瞬でもひとつに戻りたいと、もう人間のなかで生きていくなど御免だとちらりとでも心に浮かべてしまったそのときには、地上のすべては破壊しつくされるだろう』という呪い。

だがその呪いは二百五十五年の間ついに果たされることのないまま、「風火水土」もまた地上で生き始めることとなった。

29：狂音幻覚（ノイジーカーニバル）のかがみ：2011/08/06(土) 23:13:54

【キャラクター説明】

真野家で最も危険視されている投げナイフ使い。

防御不能、射程無限、攻撃力無限のナイフを投じる。

しかし、彼が危険視されているのは、その能力そのものではなく、彼の投擲技術に

あり、狙った方向に飛んでいくことは稀。強力な能力を持ちながら味方をも危険に晒すことから、良くも悪くも最終兵器扱いされ、周りからは『戦闘賭博』と呼ばれている。本人は決してこの二つ名を気に入ってはいない。

彼を唯一確実に戦術的に利用可能となるのは全方位へのナイフ全段射出である。辺り一面を吹き飛ばすことになるが、コントロールは不要。敵拠点殲滅を狙う際に戦術核の代わりに真野風火水土がパラシュート投下される。

【特殊能力】虚空の錬成（アカシックアルケミー）

世界の全ての物質が四元素により構成されていることは既に周知の事実であるが

、
真野の『虚空の錬成』は四元素の元となる元素「虚空（アカーシャ）」を四元素から

錬成する。これにより世界をありのままの姿（真の世界）「虚空界」へと導く。術式としては、特殊な魔印の施された純銀製のナイフを飛ばし、それが刺さったものからアカーシャへと錬成されていく。だが、実際はあらゆる障害物や空気摩擦さえも錬成しながら飛ぶため、事実上、射程無限の直線貫通消滅能力に近い。

さらに真野本体から一度に全方位に向けて数百本のナイフを同時射出できるため

、
見た目には真野を中心として放射状に全てが崩壊していくように見える。

†お題2（もやい）『希望崎学園史上最強の魔人の名前』（『範馬勇次郎』並みの説得力のあるネーミングを期待してます（byもやい））

++命名パート

……意味が解らないお題である。

実際、何をもって「希望崎学園史上最強」とするかの解釈が分かれたため様々な名前が投稿された。

強ダンゲロスプレイヤーのハンドルネームをもじった「鳥瀬津・T・永遠人（とりせつ・たんす・えんと）」などが目立ったが、

GK陣3人の、最強に対する解釈も異なっていたためか、高評価の名前がばらけてしまった。

その中でも3人ともに強い支持を得たマァアレダさんの「山吹 黄昏（やまぶき たそがれ）」が採用された。

なお、お題を出した張本人であるもやい氏の考えた名前は「廻一真（めぐりかずま）」であった。

654：強襲迅雷（グレネイドヴェロシティ）の立川：2011/08/07(日) 01:34:31

			_____ /	
			/ /	
	/		/ / / /	
	/	/	/ / / /	
	/	/	/ / / / /	
	/	/	文 / / / /	^^
/	/	/	/ / / /	/ \) モヤイさん.....
/ \	/	/	/ /	[祭] ^^
/	/	/	/	≡__ U / \)
			/	(~ U [祭]
		/	/	≡≡ ≡__ U
	/	/		≡≡ (~ U
		/		≡≡ ≡≡
	/			≡≡
	/			≡≡

++設定パート

二つ名ダンゲロスの進行はラジオで行っていたが、ここからが2日目のラジオに相当する。もやい氏がやむを得ずラジオに出れない状態だったために第1回の二つ名ダンゲロスサブGKだったしおさんが代打を務めた。

山吹 黄昏の二つ名は「円環暴虐（クラッシュプリズン）」であった。ここに学園最強という縛りも入るため、独自性をいかに出すかが一つのポイントだったと言えよう。

そんな中ありえないほどの独自性を出したのがロケット商会さんであった。

66：貫通結社（ペネトレイトスクエア）のロケット商会：2011/08/07(日) 01:42:04

【本名】 山吹 黄昏

【二つ名】 円環暴虐（クラッシュプリズン）

【キャラクター説明】

ぼくのこと。

この名前は仮の名前であり、真の名はロケット商会のイズミ（ぼくの本名）。

お金持ちの幼馴染、超エロい義理の妹、突然空から降ってきた美少女に好意を寄せられているが、

本人が鈍感なためまったく気づいていない。

いうまでもないが、義理の妹は毎日のようにベッドに潜りこんでくるし、

「お兄様、私たちは兄妹なのですから、このくらいは当然ですわ」

幼馴染はツンデレであり、他のライバルへの対抗心から、すきあらばぼくにセックスアピールをしようとする。

「かつ、勘違いしないでよね！偶然グアム旅行があたって、あんたを誘おうと思っただけなんだから！」

また、空から降ってきた美少女は性的知識が希薄であり、うまくいけば多様で特殊なセックスがし放題である。

「私に人間の感情を教えてください、ご主人様...」

(※4 P可)

あらゆる能力を無効化してコピーして神を殺す世界最強の能力を持っているが、

本人は平穏な生活を望み、

「なんでこんなことに」と嘆き、己を不幸だと思い込んでいる。

正義感は強く、神や絶対者など強大な権力に対しては気に入らないことがあると反逆する。

「人間は神の操り人形なんかじゃない！」

「そんなルール...ぼくがぶっ壊してやるさ！」

どんな困難にも体当たりでぶち当たり、その自然な魅力に周囲の人間は自然と引き付けられ、

ぼくを中心としたコミュニティが築かれていく...

その絆の力は、世界の法則すら覆す大きなうねりとなり、富と栄誉を彼にもたらず

。

【特殊能力】

能力名：円環暴虐（クラッシュプリズン）

効果：あらゆる能力を無効化してコピーする。世界の法則をゆがめる能力として、絶対神や最高権力者から狙われるものの、彼らでは太刀打ちできるはずもない。

基本的にギャグに走るのは二つ名ダンゲロスでは奨励されていないが、

きちんと中二的な痛々しさを内包しつつ、異形のセンスを示した彼には脱帽である。

このお題では設定パートでもGK陣の意見が分かれたが、

3人ともから高い評価を受けた珪素さんが再び選出された。

クラッシュプリズンの使い方が非常に秀逸である。

73：鋭角空虚（ソリッドイグジット）の珪素：2011/08/07(日) 01:56:49

【本名】山吹 黄昏

【二つ名】円環暴虐（クラッシュプリズン）

【キャラクター説明】

輝く金色の長髪と金色の瞳の、純粹無垢な印象を与える少女。

生まれつきの脳の損傷故、知能に障害があり、長くは生きられない体。

授業中も含め、いつも屋上で絵本を読んでにこにここと笑って過ごしている。

他者の認識を瓦解させる、魔人学園にとってまさに最悪の能力を持っていたが、

入学してから3ヶ月後に病状が悪化し、病死した。

【特殊能力】

他者の絶対的認識——いわゆる『論理能力』を破壊する能力。

彼女が何者かの魔人能力を一部でも認識した瞬間、

その魔人の認識の中には、『山吹黄昏の認識』がまるで知覚を侵す毒のように『混ざる』。

一旦混ざった認識は、魔人能力を通して自己認識そのものを破壊してしまい、対象の魔人は以後一切の魔人能力を失うだけでなく、自我を喪失した廃人と化する。

人畜無害な少女はただそこにいるだけで、絶対の暴君であった。

自己と他者を分ける『認識の檻』を破壊する、『円環暴虐（クラッシュプリズン）』。

なお、お題を出した張本人であるもやい氏の考えた設定を以下に記しておく。

77：対大勢主義（パブリックエネミー）のモヤイ：2011/08/07(日) 02:00:22

【本名】 山吹 黄昏

【二つ名】 円環暴虐（クラッシュプリズン）

【キャラクター説明】

『超強い』という概念を強制する能力。

立って強くて寝て強い、歩く姿は超強い。

相手は山吹黄昏の姿を認識するだけで『超強い』と感じてしまい戦いを挑んだ事への後悔が止まらなくなる。

山吹黄昏の攻撃は全て相手の肉体に宿る魂が『超強い』と認識してしまうため、自らの想像しうる最も凄惨なダメージを受ける。

本人の身体能力はごく普通の女子高生並みだがこの世界の摂理に『超強い』と認識されているため、超強い。

【特殊能力】

能力名：『絶対に超強い』

上記の通りである。

超強い。

†お題3（やまいち）『苗字が漢字、名前がひらがな』

++命名パート

最後にしてようやくまともなお題である。

名前がひらがなという制約上、女性らしい名前が多かった。

GK陣3人ともに選ばれた名前はなく、2人から選ばれた名前が以下の6つもあった。

- ・霜月 とるく（しもつき とるく）
- ・百合籠 ねむり（ゆりかご ねむり）
- ・早駈 おてつき（さきがけ おてつき）
- ・鴻 ひとり（おひとり ひとり）
- ・通雨 しじま（とおりあめ しじま）
- ・紅白 つばき（べにしろ つばき）

今回はお題を出したやまいちが1位に選んだ霜月 とるくが採用された。

++設定パート

何故かわからないが百合設定を盛り込んでくる人が多かった。謎である。

そんな中でも飛びぬけてヤバかったのがこれである。

111：強襲迅雷（グレネイドヴェロシティ）の立川：2011/08/08(月) 00:08:10

【本名】霜月 とるく

【二つ名】私と私の世界（オブジェクト）

【キャラクター説明】

学園3年生。バスケット部主将。

スラッとした長身と茶色がかったポニーテールが特徴。半デコ。

幼馴染の百合籠 ねむりとはとても仲が良い。

ねむりに対する感情が、友情なのかそれとも愛情なのか、自分でも分からなくなってきた戸惑っている。

「そ、そりゃ、ねむりの事は好きだけど……あくまで友達として……あーっもう、私はノーマルだっ！！」

【特殊能力】

『私と私の世界（オブジェクト）』

I. Z. K亜種。

ベッドの上、跳び箱の上、体育用マットの上、等が対象。

自分が乗っている物体（オブジェクト）の上にあるものは、まるで別世界へと切り取られたように、他者から知覚されなくなる。

なお、認識はされなくてもその場にはいるため、触れることは可能。また、声などは聞こえてしまう。

あくまで、知覚されないだけである。

※百合籠 ねむり

学園3年生。ふわふわセミロングのおっとりした女性。文芸部所属。

生まれつき身体が弱いところがある。

そんな自分を、小さい頃から助けてくれたとるくにあこがれている。

保健室。

目の前には、子供のように眠る百合籠 ねむりの姿があった。

授業中に体調を悪くしたねむりを、とるくが背負って連れてきたのであった。

(.....)

大きめの瞳、くっきりと通った鼻、小柄な口、風にたなびく前髪

(.....あーっ、もう、何でこんなに可愛.....)

ぶんぶん、必死で首を振るとるく。

(私はノーマル。私はノーマル。私は.....)

心とは裏腹に、とるくはベッドに跨っていた。

『私と私の世界（オブジェクト）』

このベッド上は、二人だけの空間。

(ちょ、ちょっとだけ.....ちょっとだけなら.....)

ゆっくりと自分の唇をねむりの唇に近づけていく。

紅みがかかったとるくの唇が、ねむりの唇に触れる瞬間—————

むぎゅっ

—————ねむりの両腕がとるくの背中を押さえた。

「!?えっ?ちょっ?あんた、起きて.....!?!」

「何をしようとしていたのかなあ〜?」

意地悪そうな笑みを浮かべるねむり。

とるくの言い訳をふさぐよう、その唇は重ねられた。

「ぶはっ……えへへ」

悪戯っぽく微笑むねむりと、真っ赤に頬を紅潮させるとるく。

これからは、私と貴方の世界—————

完全にキャンペーンを間違えているが、クオリティは無駄に高い。

後、これを物怖じせずに朗読したあやまださんにはちょっと引きつつ敬意を表したい。

そして1つ目と2つ目のお題の設定パート両方で選出された珪素さんはまた非常に高品質なものを提出された。

GK3人ともから高い評価を受けている。

112 : 鋭角空虚 (ソリッドイグジット) の珪素 : 2011/08/08(月) 00:08:33

【本名】 霜月 とるく

【二つ名】 私と私の世界 (オブジェクト)

【キャラクター説明】

オーダーメイドの薄い眼鏡を付け、常に潔癖な程清潔に保たれた白衣に身を包む女性研究者。

元は世界の上位11人の天才で構成された異能研究者集団“大統一”の第4位であったが、

機関の壊滅と共に姿を消しており、他のメンバーとの交流も際立って少なかったという。

静かながらも穏やかな物腰で他者に接する善良な性格であったが、

その目は常にどこか遠くを見ており、常人と同様の生活を送りながらも、

脳の一部を並行的に働かせて、常に『彼女だけの真理』を黙考していた。

現在は南極の山脈に存在する研究施設の中で、誰にも邪魔されず研究を進めているというが——

【特殊能力】

北極点より直線にして24km。極夜の闇にオーロラだけが浮かぶ氷上に、彼女の研究所は存在する。

しかし近づくと、それは研究所などではなく――入口もなく空間もない、10m立方内にぎっしりと構造の詰まった、巨大なひとつの機械であることが分かるだろう。

そして、これこそが彼女の能力の産物である。周囲の環境に存在する構造を用いて、

自らの身体を徐々に生物から無機質へ置換し、巨大な機械の構造物（オブジェクト）と化していく能力。

蒸気の代わりに氷霧を動力とし、硝子の代わりに雪晶をレンズとする、正常なエントロピー則に完全に反した『冷鉄の機械』。それが霜月とるくである。

他者には理解しようもない『彼女だけの真理』を、ただただ突き詰めて研究するために発現した能力――

生命も温度も持たない不滅の機械となって、世界の終わりまで計算を続けるそれは、

白く凍りついた象牙の塔であり……霜月とるくの『私と私の世界（オブジェクト）』ある。

しかし今回はこれを上回る圧倒的な存在があった。

103：稲羽之素菟（ヴィシュヴァカルマン）の稲枝：2011/08/08(月) 00:05:54

【本名】 霜月 とるく

【二つ名】 私と私の世界（オブジェクト）

【キャラクター説明】

魔神である水天《ヴァルナ》にはアリスとボブという二人の子供がいた。

二人は巨神であるトヴァシュトリアのもとへと預けられた。

トヴァシュトリアの『巨軀』は光を放つかのごとく白く、優しいつづらな眼を持つ、おおらかな性格であったため、

幼いアリスとボブをひどくかわいがり、アリスとボブも彼になついた。

その後長い時間を経てアリスとボブはある日、自分達がマクスウェルという魔獣によって

『無』から生み出された存在であることを知る。

アリスとボブは対の存在であり、二人の《肉》がつながるとき、

二人の肉体の質量すべてが『中二痕』へと変換され、千を超える『最悪の魔人』

が生み出されるという。

その事実を知ったトヴァシュトリアは二人を別ち、アリスを監視者《ウォルター》の元へと預け、

ボブを自らの『大腿』へと閉じ込める。

水天はトヴァシュトリアの行いを聞くと怒り狂い、トヴァシュトリアの体液を爆ぜ殺してしまう。

その頃、監視者《ウォルター》の元から逃げ出したアリスは、トヴァシュトリアの躰から這い出てきたボブと再会する。

こうして、かの《千の顔を持つ地獄達》は誕生した。

その際に生まれた主な魔人達は、善き環境《イブ》、嘔吐きな発行者《イバン》、
、邪悪な攻撃者《マロリー》、

敵対者の鑑《オスカー》、横暴な証明者《ペギー》、秘匿の存在者《マスカレイド》、
難解な検証者《ビクター》、

信頼された調停者《トレント》、逡巡する侵入者《トゥルーダ》、私の唯一の世界《オブジェクト》、
最後の当事者《ゾー》等がいる。

空間と統合され、世界霊《アイザック》となったアリスとボブに彼らは良く従ったが、
ただ独りだけ、

世界霊《アイザック》に反抗する魔人がいた。それが《オブジェクト》である。

反抗する《オブジェクト》に対し、世界霊《アイザック》は魔人としての能力と肉体を分離し、

人間としての名『霜月 とるく』を与え、無力化しようと試みる。

しかし、その際に《オブジェクト》は二つの対存在に分離され、試みは失敗してしまう。

世界霊《アイザック》ははからずとも、

自身を生み出した魔獣と同じ行為を繰り返していたのだ。

片割れとなった、私と私の世界《オブジェクト》は魔人の巢食う学園へと足を踏み入れた。

そこに、自らの半身を求めて。

【特殊能力】創造実体《インスタンスコンバータ》

想像したものを創造する単純な能力。

世界霊《アイザック》によって生み出された当初は、この能力で数々の惑星、衛星を創造したが、

やがて創造することの空しさを識る。

この能力では、彼女自身や世界霊《アイザック》を創造することができない。

だからこそ、彼女は自分自身と世界霊《アイザック》を憎み、愛すのだ。

何というか…その…今キャンペーン初の生理的に目を背けたくなるレベルと言えるのではないだろうか。

もちろんこのお題では稲枝さんが選出された。

あわや三冠かという珪素さんに一矢報いた稲枝さんには敬意を表したい。

†まとめ

設定パートで2回選出された珪素さんがトップとなった。

第2回二つ名ダンゲロスでも1位を獲得したので二連続優勝である。

賞品としてもやいブーメランが贈られた。

優勝商品：モヤブーメラン

(モ・o・)つ====へ

GKが許可した本戦でキャラクターに装備することが出来るアイテム。

動作を消費して使用できる。発動2ターン後に自分死亡。

二つ名ダンゲロスも3回目となり、GKもプレイヤーも大分慣れてきたといえよう。

以前のような朗読中に飛び降りたくなったり生まれてきたことを後悔するという事は今回ほとんどなかった。

もちろんプレイヤーの中二力が下がったというわけではなく、洗練された結果なのだと思う。

(欲を言えば、もっと中学二年生らしい粗削りながらも猛々しい中二を見てみたかった気もするがさすがにこれは欲張り過ぎだろうか)

また、これまでの二つ名ダンゲロスは、第1回で生まれた山乃端一人がよく本戦で使われたり、第2回でつけられた「妹マイスター」という二つ名でいまだにkiriさんが呼ばれていたりと後にまで影響を残すものが有った。

現時点で、第3回で一番後にまで残りそうなのは優勝賞品でもネタにされたサブGKもやい氏が、キャンペーン終了後に再度考えた『希望崎学園史上最強の魔人の名前』である。

この月刊ダンゲロスの他の記事にも彼の名前が出てくるので既にこの名をご存知の方もいるかも

しれない。

最後に彼の名前を呼ぶことでこの記事の締めとしたい。

ありがとう！大銀河超一郎 w w w w w w

(文責：やまいち)

アカシャ攻略戦（架神恭介）

<解説>無印BOX版を第一作目とすると、時系列（？）的には五作目の後半に位置するエピソード。識家&『転校生』とスズハラ機関の"仮面の13人"の戦いが激化している最中のおはなし。【世界観】架神BOX版準拠 <http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4062837595/cagamiworks-22>



1、

阿摩羅識あらか（あまらしき-）に連れられて彼女が訪れたのは、都内某所にある、ごくありふれたマンションの一室であった。

その阿摩羅識あらかは手に箱入りのプリンを提げている。先方への手土産であった。真夏日にも関わらず、それは奇妙にもキンキンに冷えていた。彼女はよく知らなかったが、これは都内どこぞの有名スイーツ店のもので、気が遠くなるほどの行列を乗り越えねば手に入らない逸品らしい。まあ、そんなことはあらかにとっては何の問題でもないのだが。

「あら、いらっしゃいー」

あらかの鳴らしたインターフォンに応じて、扉から現れたのは一人の少女。年の頃は彼女と同じくらいか。十七か十八。真っ黒に焼けた肌と、赤い目。髪は真っ白で、目の周りには濃いアイシャドウ。この少女のことは既にあらかから聞いている。

——意識唯。

識家の一人でありながら、あのお屋敷でその姿を見ることはない。識家の中のはぐれ者。そして、識家の魔人の中で最も強大な力を持ち、それゆえに最も手に負えない問題児でもある。その意識はあらかの下げている袋に気がつくと、

「あっ、結昨日屋のプリンだ！ 気が利くじゃん、ありがとー！」

「うん。そろそろ忘れた頃かと思ってね」

お土産のプリンをひったくり、早速テーブルに着いてニコニコしながらスプーンを突き刺す。

しかし、彼女がお屋敷に行くと、末那識千尋をはじめとして敷家はいつもプリンを食べている気がするが、もしかして一族揃ってプリン好きなのだろうか……、などと彼女が思っていると、

「キミのもあるよ」とあらかがプリンを差し出してくれた。

その時に、初めて意識唯は彼女のことを意識したのだろう。

行儀悪くプリンを頬張りながらも、そちらを見て……、
「あらかさん、そちらの彼女はどなた？ 『転校生』？」
「うん、正解。キミを何とか倒せないかと思ってね。連れてきたんだ。紹介するよ」
だが、彼女はあらかの紹介を遮って――、
「どうも、意識さん。はじめまして。両性院乙女です」
ぺこりと頭を下げる。
意識唯は、興味深げに目の前のボーイッシュな少女を見つめ返した。

2、

それはさておき、スイーツタイムはまだまだ続く。
テーブルに着いた三人は、それぞれのプリンを味わっていた。
「あらかさん、レモネード欲しい。ホットで」
「はいはい」
直後、意識の手元には、湯気を立たせたレモネード入りのカップが存在している。この部屋にはクーラーもないのに夏場とは思えぬ程に涼しい。
「乙女ちゃん、キミは？」
「アイ스티ーもらえますか」
「ミルクとレモンは？」
「ストレートで」
同様に、両性院乙女の手元にも今やストロー付きのアイ스티ーが存在していた。御丁寧にコースターまで付いている。これらは阿摩羅識あらかの能力『サールナート』によるものである。
冷えたアイ스티ーを啜りながら、両性院乙女は部屋の様子を窺った。
……奇妙な部屋である。
意識唯の、その伝え聞く絶大な力と無茶苦茶な悪評の割には、ごくごく地味なフローリング張りの洋室である。六畳部屋にキッチンが付いただけのシンプルなもの。
が、なぜか床の間がある。洋室なのに床の間。そして、そこには一本の三叉の槍が――、まるで壺でも飾るかのようには架けられていた。意識にはすっかり骨董品扱いされているようであるが、これが、あの秤屋馬紗斗（はかりやまさと）の物だと聞いているから、乙女には感慨深いものがある。"仮面の13人（マスケーラ・サーティーン）"の一人、秤屋馬紗斗には乙女の知己の『転校生』も何人か殺されている。しかし、その秤屋も意識の気まぐれによって討たれた……。それでも意識唯は決して乙女たちの味方でもない……。
彼女の複雑な表情に気付いているのかいないのか、意識は乙女を見て、
「ね！ どうやってこの子であたしを殺す気なの！？」
と、楽しげに聞いてくる。興味津々といった体である。
一方、あらかは頭をかきながら、
「いや……、何か手があるという訳ではないんだけどね。来てから考えようかな、と」

「なあんだ」

意識は呆れたような口ぶりで、オーノーなどつぶやきながら天を仰ぐ。

「たいへん、たいへん。ゆいちゃんが識家のみんなを裏切って"仮面の13人"になっちゃったから、みんなはなんとかゆいちゃんを殺そうとがんばるけど、ついに万策尽きちゃったのでした」

そう言って残りのプリンをかきこむと、意識は容器をポイとどこかに投げ捨て、ころんと床に寝転がった。投げ捨てたゴミは既にどこかに消えている。あらかはそんな様子を見て、あははと笑うと、

「あのさあ。前も言ったけど、できればじっとしててくれないかな？」

いつもどおりの、のんびりした口調で説得らしきものを試みる

「いや、好きなことしてくれていいんだけどさ、うちの『転校生』をあんまりパンパン殺さないで欲しいんだ」

「やーだ」

が、相手はまるで子供のようなものである。にべもない。

「ね。なんで、うちの子たちを殺すの？」

「だって、あたし、"仮面の13人"だもーん」

意識は秤屋の槍を欲しがり、彼を殺した。その後、何故かそのまま"仮面の13人"秤屋馬紗斗として居座ったのである。おそらく大した理由はないのだろう。いつもの彼女の気まぐれだ。

「でも、キミは"仮面の13人"のやつらもパンパン殺してるじゃん？」

「それはいいのよ。悪の組織ってそういうもんでしょ。敵を殺したり、仲間を殺したりするのよ」

「あいつらはいくらでも代わりがいるからいいけど、『転校生』は有限なんだから勘弁して欲しいんだよね」

「『転校生』なんて、あらかさんがいくらでも作ればいいじゃん！」

「千尋ちゃんに負担が掛かるから、それはあんまりやりたくないんだよ」

「そんなの知ーらない」

意識はそっぽを向いてしまい、あらかを苦笑いを浮かべてこちらに向き直った。

「ま、こんな感じで、今回も説得は失敗に終わったわけだけど」

さあ、どうしようかね？と、まるで他人事のように呑気に言い放つ。

そんな彼の姿を見て乙女は今も思うのだが、やっぱり識家の人たちはどこか緊張感に欠けている。スズハラ機関との抗争が激化して以来、既に過半数を超える『転校生』が討たれた。それどころか識家の一人である阿頼耶識そら(

あらかやしき-)までが"仮面の13人"に殺されているし、先日、乙女が阿頼耶識ゆまと共に野獣牛兵衛又吉を討ちに行った際は、危うくゆままでが命を落とすところであった。にもかかわらず、あらかにも、彼の弟のぎりかにも、それどころか阿頼耶識ゆまも含めて、彼らからは緊張感というものが未だにさっぱり感じられない。他の魔人と一線を画する能力の持ち主ばかりだから色々と感じが麻痺しているのだろう。それは目の前の意識唯もきと同じだ。彼女は他の"仮面の13人"よりもよっぽど『転校生』を殺している。同時に、他の誰より"仮面の13人"を殺しているのも彼

女なのだから……。

ともあれ、考え込んでばかりいても仕方がない。何事も物は試しである。

両性院乙女はすっと立ち上がって、

「意識さん——」

「なあに？」

尋ねてみる。

「ちょっと試しに殺してみてもいいですか」

3、

勿論、彼女は快諾してくれた。

「別にいいけど。無策じゃダメだと思うよ？」

「分かってますけど、やっぱり自分で体験してみないと理解できないところもあると思うんです。すいませんが、少し付き合ってください」

「おーけー、おーけー」

意識はコロコロ寝転んだまま手招きする。近付いた乙女は足下にある彼女の顔を見下ろすと、
「踏んでもいいですか？」

「なんでもいーよー」

黒のニーソックスの足の裏で、意識唯の顔を踏みつけた。そして、そのまま……、

「乙女ちゃん、ちょっと臭いよー？」

「す、すいません……！」

体重をかけて、——踏み抜いた。

無限の攻撃力を持つ両性院乙女に踏み抜かれれば結果は瞭然である。意識の頭蓋はメギメギと音を立てて一瞬きしんだ後、スイカ割りの如くに四散し、辺りに赤い果肉が飛び散った。テーブル上の食べ終えたプリン容器にも真っ赤な液体が飛び込んで、狭い室内には血の匂いが充満する……。

——が、次の瞬間には、意識はテーブルに着いて二つ目のプリンを食べていた。このプリンは先程と同じく結昨日屋の銘菓であるが、しかし、阿摩羅識あらかの生み出したものではない。テーブル上に飛散した血飛沫も、室内を満たした臭気も、もちろん頭部を失った意識の死体も転がっていない。おまけに、乙女もまたテーブルに着いており、意識と向かい合い、先程食べ終えたはずのプリンにスプーンを刺していた……。

「おかわり、いるかなと思って」

両性院乙女は応えずに立ち上がって、

「意識さん、槍を借りてもいいですか？」

「どーぞ、どーぞ」

はぐはぐとプリンを頬張りながら、意識は応える。

乙女は秤屋の槍をヒョイと床の間から持ち上げ、意識の頭頂にその先端を合わせた。

「刺しますよ？」

「あいあい」

乙女が軽く力を入れると、彼女の無限の攻撃力により穂先は易々と意識の頭頂を穿ち、そのまま喉を通過して、胸骨をバキバキとへし折りながら貫通していき、尻の辺りまで深々と差し込んでから、一一止まった。上からの圧力でカエルのようにへしゃげた意識の顔が前のめりに倒れて、テーブルの上にガツンと打ち付けた瞬間一一。

「きゃっはー！ 乙女ちゃん、意外とおっきいね！」

「……っ！」

背後から回された意識の両腕が、乙女の両胸を驚掴みにしていた。しかも、意識の部屋のベッドの上である。乙女の着ていたYシャツは半ばはだけて、白いブラジャーの上から意識の両手もみもみと彼女を揉みしだいていた。しかも、これは……、

「ひゃん……！ はぁ……っ！」

意外なまでのテクニシャン！ もはや女子同志の戯れの域ではない。明らかにその道の技だ！ 意識はぺろぺろと赤い舌を突き出すと、熱い唾液と共に乙女の首筋を這わせた。あまりの快感に乙女の下半身はぶるぶると震えたが、そんな様子を見て意識はクスクス笑うと一一、彼女から離れた。

だが、これは命拾いと言うしかない。今回は意識の可愛いイタズラだから良かったものの、もう少し「可愛げのないイタズラ」を彼女が選んでいたら一一。そう、彼女のほんの気まぐれで両性院乙女の命は失われていたことだろう。この遣り取りの間もあらかはまったりと抹茶を啜っていたし、これまでの呑気な雰囲気乙女もすっかり騙されていたが、意識と対面している間中、自分がずっと生と死の綱渡りにあったことを彼女ははたと気付かされたのである。

「と、いうわけで、キミにも実感してもらえたと思うんだけど」

阿摩羅識あらかは湯呑みを置いて、

「どうかな？ 彼女の『アカシャ』、破れそう？」

そう、これこそが、いま彼らが意識の下を訪れた理由であった。

4、

はぐれ識家、意識唯の能力『アカシャ』一一。

簡単に言えば、これは無限に存在する平行世界の中から自らに都合の良い世界を選択する能力である。

……だが、この説明は少し端折り過ぎのきらいがある。もう少し詳しく説明する必要があるだろう。

この世界が魔人末那識千尋（まなしきちひろ）の認識により成立一一、つまり、末那識千尋の妄想の産物であることは周知の事実だが（少なくとも識家と彼らに関わった『転校生』たちにとっては周知である）、一般の魔人が末那識千尋の認識を微修正することでその能力を発揮してい

るのに対し、識家の面々はその末那識千尋に直接アクセスすることにより自らの能力を実現している。つまり、阿摩羅識あらかの『サールナート』はあらゆるモノを自在に存在させる能力であるが、これは彼が末那識千尋に直接アクセスして、「そこにそれがある」という認識を植え付けているに他ならない。彼の手元に「よく冷えた結昨日屋のプリンがある」と千尋に認識させれば、実際に彼の手元にはよく冷えたプリンがある。時代設定を操る阿頼耶識ゆまの『ヴァイシヤリー』や登場人物の関係性を操る阿頼耶識そらの『ラージギール』も同様である。より正確に言えば、彼らは末那識千尋が妄想の世界を組み上げる際の、その時に使用される無数のデータを一部改竄する。これは「世界」を千尋の生み出す妄想（妄念）と認識している彼らの特権である……。

一方、意識唯の『アカシャ』も似た能力ではあるが、彼らとは少しだけ違う。末那識千尋は識家に改竄されたデータを用いて、ほとんど動物的に世界を創るが、とはいえ、同じ材料を扱えば常に同じ世界が一つだけ産まれる訳ではない。幾つかのデータを元に創り上げられる世界は無数に分岐し、彼女の中には無数の世界が存在する。とはいえ、そのほとんどの平行世界は誰にも意識されることなく泡のように消えていく。……と、ここまで言えばお分かりだろう。意識唯の『アカシャ』とは、まさにその泡の如き平行世界の一つを、我々にむりやり"意識させる"能力である。

だから、「意識唯を殺す」世界が今まさに我々に意識されていても、彼女は殺された後に適当な世界を選択する。それは彼女が「テーブルに着いて次のプリンを食べている」世界だったり、「乙女の背後に回ってレズプレイを仕掛けんとする」世界だったりする。そして、それを我々が意識させられた時、当然ながら彼女は平然として生存し続けている。無論、世界を選択しているのは、いま目の前で頭を潰され、槍に貫かれて死んだ意識唯ではない。それを行使しているのは更に上位世界にある意識唯である。

というわけで、意識唯は手に負えない。彼女は文字通り「望むことなら何でもできる」。彼女は殺しても死なないし、どんな強者でも彼女なら殺せる。彼女は大金持ちにもなれるし、乞食にもなれる。男にもなれるし、女にもなれる。アルビノにしてガングロという彼女の無茶苦茶な存在も「何でもできる」彼女の戯れの一環に過ぎない。「何でもできる」故に彼女は様々な矛盾を内に抱え込んで自らをデコレートする。もっとも、それが彼女の存在意義だとか、そういった大それたものではない。単なる戯れ。一過性のマイブームに過ぎない……。

「どう？ いけそう？」

「そうですね……」

意識唯の『アカシャ』を前に、両性院乙女は考え込む。事前に『アカシャ』の説明は受けていた。目の前で能力の実演までしてもらった。だから、ここからは彼女の仕事だ……。

ほとんど何の役にも立たない性転換能力『チンパイ』を使いこなして様々な依頼を解決し、さらには阿頼耶識ゆまと共に"仮面の13人"の一人、丑田牛若丸を倒した――もっとも彼らが倒したのはそのオリジナルである野獣牛兵衛だが――彼女は、その才知を買われて、いま、阿摩羅識あらかと共に秤屋馬紗斗攻略――、事実上の意識唯攻略に臨んでいるのである。敵味方問わず猛威を揮う最危険人物、意識唯を突破できるのは、凶悪な能力を持つ魔人ではなく、むしろ才気溢れる一つの知恵ではないかと思われたからだ。

「がんばれー。がんばれー」

考え込む乙女の横では、意識唯がふざけた調子で囃し立てている。敵を殺し、仲間を殺し、そして今、同類であるはずの一族から命を狙われている彼女だが、あまりにも突き抜けた脳天気さである。とはいえ、「何でもできる」彼女に常識的感性を期待する方が間違いなのだ。強大な力を持った者が力に溺れて性格が歪む……ということはまああるが、彼女は生まれつきこの力を持っていた。いや、この力を持って存在した、というべきか。ともかく、そんな彼女に通り人並みの倫理観など宿るはずもない。他者の感謝の念も恨みの想いも、すべて彼女には昨日吹いた風のようなものである。何の意味もない。助けてくれと懇願したら味方してくれる時もあるが、ほぼ同じ確率で"助けを乞うたら敵に回る"。説得も、同情も、憐れみも、通用しているようで通用していない。完全なきまぐれ。天災の如きもの。いや、それでいて、「イタズラ」という形で発現する悪意だけはしっかり内に持っているのだから、天災よりも余程タチが悪い。だが、

「意識さん……」

両性院乙女は不意に顔を上げた。そして、

「一つ確認したいんですが」

「なあに？」

乙女は、先程の彼女の様子を思い返しながらか、尋ねる。

「意識さん。確か、あらかさんからお土産を貰った時、喜んでましたよね？」

「うん。結昨日屋のプリン、美味しかったよ」

屈託なく彼女は答えた。乙女は重ねて尋ねる。

「でも、それって不思議だと思うんですよ。意識さんは、その気になれば結昨日屋のプリンも簡単に手に入りますよね？ あらかさんがプリンを生み出すのと同様に、意識さんは『手元にプリンのある世界』を選ぶだけでいい……」

そのはずである。あらかにとってプリンを得ることが造作も無いように、彼女にとってもそれは造作もないことのはずだ。となれば、彼女がプリンを供されて喜ぶはずはないが……。

「それはそうなんだけどね」

意識はまたしても手にプリンを持っている。三つ目だ。「自分が太ってない世界」を選べばダイエットの必要もないからだろう。彼女はそれを一掬いして、口に運びながら、

「でもね。忘れちゃうのよ。他に楽しいこといっぱいあるし。いろいろやってると、何が美味しかったとか忘れちゃうの。だからね、人からの贈り物とか、結構嬉しいんだよ」

そう言ってにっこり笑った。

一方、両性院乙女もその言葉に満足したのか、晴れやかな顔で立ち上がった。

「あらかさん。十分です。今日のところは出直しましょう」

「オッ、唯ちゃんを倒す妙案が浮かんだのかい？」

「そんなところですよ」

意識が目を輝かせて、「ホント！？」と尋ねてくる。彼女は、自分をなんとかしようと努力する人の姿が大好きなのだ。誰もが徒労に終わるのだけれど、手を変え品を変え挑んでくる挑戦者たちを彼女は何度でも喜んで迎える。……飽きるまでは。

「ねえ、ねえ、次はいつ来るの!？」

「明日にはまた来ますよ」

「じゃあ、今度は乙女ちゃんもお土産持ってきてね! 絶対だよ!」

自分が"本当に"殺される可能性などまるで考えてもいないのだろう。呑気なものである。

一方、ドアに手をかけた両性院乙女は振り返って笑顔で答えた。

「ええ。とっておきのお土産を持参しますよ」

5、

その両性院乙女は約束通り、翌日に意識の部屋を再訪した。

昨日と違うのは、付き添いの阿摩羅識あらかがいないこと。代わりに一人の女子高生を連れていたこと。

「お土産って、もしかしてその子？」

出迎えた意識は、目の前の三つ編み眼鏡の少女を値踏みするように見つめた――。

「ま、とりあえず、上がってお茶でも飲んでいってよ」

意識が部屋の方を指すと、机の上には3つのレモネードが生まれていた。そういう世界を選んだのだろう。昨日、あらかにレモネードを所望したのは彼女の気まぐれだろうか。だが、両性院乙女は彼女の申し出を断って、

「お気遣いありがとうございます。でも、僕はすぐに帰りますので」

「え、そうなの!？まあ、いいけど。で、どうやってあたしを倒すの？」

「はい、意識さんには今から彼女と――」

横にいる少女をちらりと見て、

「レズプレイをしてもらいます」

「ふうん」

意識はつまらなそうな顔をした。なんだ、そんな手か、と言わんばかりに。恋人をあてがって彼女を懐柔――、さらには操作しようとした者もかつていなかったわけではない。

「言っとくけど、あたし、レズはお手の物だよ？ 前にね、妃芽菌って女子高の子たちを全員ね.....」

「知っています」

乙女は意識の言葉を遮った。彼女の手並みは昨日、乙女も味わったばかりである。だが.....、

「ま、モノは試しです。とりあえず、やってみて下さい」

「それはいっけど.....。あんまり期待外れだったら、この子、殺しちゃうかもよ？」

「それはどうぞご自由に.....」

そう言い残して、両性院乙女はその場を立ち去った。

ドアが閉まってからすぐに、「ひゃああん!」「うあっ、ひゃ、らめっえ!」など、これまで聞いたこともない程の意識の取り乱した声が聞こえてきたが、そこまでは両性院乙女の思惑通りである。

「じゃあ、ゆまさん。鏡子さんを一ヶ月前に戻してあげてください」

結局、三つ編み眼鏡の少女――鏡子が、意識唯の部屋から出てきたのはあれから一月後のことであった。

「おっけー」

ゆまがそう応えた瞬間には既に鏡子の姿はない。時代設定上「一月前の世界」へと彼女は送られたのだろう。これで彼女の空白期間は補償される……。

「しかし、どうやったんだい。乙女ちゃん？」

阿摩羅識あらかが不思議そうに尋ねてくる。意識唯が他者に影響を与えうる全ての世界から消えたのは今朝のことであった。彼女はいま、ただひとり、真っ暗な世界の中で、殻に閉じ籠るようにひっそりと過ごしている。意識唯の封印に成功したのである。これまで識家にも他の『転校生』たちにもできなかった偉業と言えるが、両性院乙女は平然と答えた。

「簡単なことですよ。意識さんに最高のレズセックスを体験してもらったんです」

「鏡子ちゃんか？ 確かに彼女のセックスは宇宙レベルと聞くと、それで唯ちゃんがどうこうできるわけではないだろう？」

あらかの言うとおりに、鏡子の性技は人外の域、――快樂の荒波とでも言うべきものであって、この世のものとは思えぬ快樂をもたらす。そして、それをわずか十分も受ければ人は半日の間ばかりとも動けなくなるのだ。だが、意識は「自分が疲労していない世界」を選択し続けることにより、ノーリスクで愛撫の快樂のみを享受し続けることが可能となる。だから、鏡子のセックスで意識を行動不能にしたわけではないだろう。

――その疑問に答えて、乙女は言う。

「ヒントはあらかさんのお土産にあったんです」

「オレの――？ 結昨日屋のプリン??」

「そうです。あの時、意識さんは喜んでましたよね」

それは昨日も意識本人に確認したところであった。あらかは頷く。

「それに意識さんはこうも言ってましたよね。『忘れちゃうんだ』と。彼女は無数の可能世界から、自分に都合の良い世界を自在に選択できます。しかし、『忘れる』ということは、彼女はその全ての可能世界を認識して、そこから選択しているわけではないということです。もっとも全てを認識なんてしたら意識さんの精神が耐えられないと思いますけど」

「ふむ……」

そもそも末那識千尋本人ですら自らの妄想世界の全てを認識できていないわけじゃないのだ。

「ですから、意識さんが『選択できる世界』というのは、実際は『彼女が想像できる世界』に限られた話なんです。千尋さんの生み出す世界にはプリンのある世界なんて幾らでもあるのに、意識さんがプリンのことを忘れてる限り、『プリンが手元にある世界』を彼女は選択できない」

ゆえに阿摩羅識あらかのお土産は喜ばれたのである。意識唯は結昨日屋のプリンが美味しいということを知っていたし、そもそも彼女が初めに「結昨日屋のプリンが美味しい」ことを知ったのも、前にあらかが土産として持ってきたからである。「美味しいプリン」を知らない意識は、「美味しいプリンが手元にある世界」を認識できない……。

「僕は意識さんに押し倒された時に分かったんです。『彼女は最高のレズセックスを知らない』と……。確かに意識さんのテクニックは大したものでした。僕なんかよりよっぽど巧い。でも、彼女のレズセックスは常識的な範囲で素晴らしかったです。鏡子さんの規格外のセックスとは違う……」

両性院乙女は、まだ彼が男だった頃に受けた鏡子の愛撫を思い出さざるをえない。意識の愛撫を受けた時も下半身が震えたが、しかし、鏡子に胸を揉まれ、首筋を舐められたなら、あの程度で済むはずがない。

「そうか……」

あらかはポンと手を叩いた。

「じゃあ、唯ちゃんは『最高のレズセックス』を知ったことで……」

「そう。意識さんは『鏡子さんのレズセックスを飛び越えた』。一度鏡子さんの愛撫を知った以上、『この愛撫を超える愛撫のある世界』を選択することは可能です。ここからは推測ですが、彼女は最初は『鏡子さんの愛撫が更に凄まじい』世界を選択したことでしょう。そして、『自分と鏡子さんが疲れていない世界』を選択し続け、無限の体力の下、おさるのように鏡子さんとのレズセックスにのめり込んだと思います。ですが、意識さんは途中で気付いた」

「『最高の自慰を実現する世界』に……」

あらかは今朝確認した意識の姿を思い出していた。誰もいない真っ暗な世界で、たった一人、股間に手を当て、止めどない愛液と喘ぎ声と共に転げまわっていた彼女の姿を――。

「最高の快楽の最中にあった意識さんは、できるだけ思考を排除して快楽に耽りたいと思ったことでしょう。『何でもできる』彼女にとっては、鏡子さんさえもこの快楽を得るための必須条件ではありません。自らの自慰能力を鏡子さんと同じにまで高めれば良いのですから。他者も、おふとんも、光でさえも、今の意識さんには必要ありません。たった一人で最高のセックスを自給自足できるんですから。だから、鏡子さんが意識さんの世界から追い出されるのも時間の問題と考えていました。いま、意識さんは必要最小限ギリギリの思考だけを残し、残りのリソースの全てを快楽に集中させているはずですよ」

両性院乙女はそこでニヤリと笑って、

「このまま彼女には神話になってもらいましょう。宇宙の片隅で永遠の自慰に耽り続ける少女神が一柱いたって構いませんよね？」

「ああ、それはもちろん構わない。ということは、これで――」

「ええ。"仮面の13人"秤屋馬紗斗、攻略です」

宇宙の片隅でとはいえ、秤屋（意識）自身は健在である。スズハラ機関の欠員補充システム「仮面システム」も機能しない。これで"仮面の13人"も残りあと五名……。

「あ、そうだ」

乙女は思い出したように付け加えた。

「あらかさん。鏡子さんにはいつかお礼をしてあげて下さいね。まあ、鏡子さんとしては満ち足りたレズセックスを満喫できて満足でしょうけど、僕たちとスズハラ機関の戦いに巻き込まれたのも事実なんですから」

「うん、そうだね。一つ借りができたし。僕たち識家にできることなら協力すると、鏡子ちゃんに伝えておいてもらえるかな？」

「ええ、了解しました」

だが、この時の"識家の借り"が返されるのは、まだまだずっと先の話である。――具体的には八十年強先のおはなし。それは彼女の、実の曾孫に対する愛情として発現されることになる。

「では、次にいきましょうか。そろそろ未来探偵紅蠍に仕掛けた罠が活きる頃でしょうし」

「そうだね、あちらも巧くいってればいいんだけど……」

二人は意識唯のことは忘れて、『転校生の世界』へと身を隠す――。

事実、これから先、彼らが意識に煩わされることも、逆に彼らが意識へと接触することも永遠にありえないだろう。

だが、いまでも宇宙の片隅で、意識唯は永遠の自慰によがり続けているのだ。

終

本文：架神恭介

ダンジョン&ダンゲロス追加カード

開発が進む「ダンジョン&ダンゲロス #1狂頭の試練場」 だが、キャンペーン「ダンゲロス流血少女」からの追加カード17枚をもって、カードの追加は一旦終了となる（次回からのカード追加は#2を予定）。ここでは「流血少女」からの追加カードを簡単に紹介する。説明はごく簡単に留めるので、プレイヤーの皆さんには製作者の予想を超えた応用性を見せて欲しい。.....あんまり予想を超えられると調整するけど。（※画像は開発中のものです。仕様は変更される可能性があります）



【100円ダス】クセのある通常アタッカー。前衛でも後衛でも、先手を取って攻撃を決めれるが、それが終わるとアイテム使用以外やる事がなくなる。高い素早さは何かに活かせるのか？

C

弥本子姫

♀



『センバ・フェニックス』

<PAS> 死亡時に後手カウンターで
敵全員に通常攻撃。

1d6

0

3

3

illustrated by 鳩子

【100円ダス】アタッカーとしての打撃力は控えめだが、死亡時にカウンター攻撃を行うので保険として使える?? それよりものうさぎの先手を取れる素早さ3が重要か。

C 魍魁子・馬頭魔羅出 ♀



『Charming Balor』

<ACT> 敵一体即死

制約：行動不能の相手にしか
当たらない。ボス戦無効。

1d6

0

4

1

illustrated by 鳩子

【100円ダス】 今回の追加カードではもっとも伸び代のあるカードかも？ B1では姦崎とのコンボで50%でドラゴン、熊を完封可能。後衛に置けばB2以降でも活躍できる?? デビリッシュや鏡子の価値が上がるかも。

C 小野寺 塩素 ♀



『謀計リスクヘッジ』

<ACT> 逃亡できる。

制約： 敵レベル数合計×階層×
200 円を消費。



illustrated by ひじ鉄

【100円ダス】 序盤の緊急脱出カード。B1ならL1の敵3体に囲まれても600円で無事に脱出可能。ドラゴン単体でも600円。この辺りまでは実用範囲か？ ドラゴン+L1二体だと1000円。こうなると生贄を差し出した方が良さだろう。B2以降はエロ本の方が有用だが、お金が腐るほどあれば安全に逃げ放題となる。ただし、素早さが3しかないのがネック。

C 彩ヶ崎 玖三子 ♀



『いきり立つ若者』

<ACT> 味方全員の防御+1点。

制約：行動不能



illustrated by ひじ鉄

【100円ダス】 耐久8点で序盤のブロッカーとしては優秀。能力を使うと2ターン目からは耐久9点となり、序盤の壁としては突出して優秀と言えるが.....。

UC 一八七二三 ♀



『明日ありと思う心の仇桜』
<PAS> 通常攻撃で敵を倒すと1ターンの間、敵から自分への通常攻撃を無効化。



illustrated by 鳩子

【100円ダス】 攻撃力では100円UCの白金翔一郎に劣るが、条件さえ整えれば防御面では白金を上回る?? 最前列で壁にするなら相手を安定して倒せる打撃力が必要か。

UC 賭蝦夷ヶファイ ♀



『乾坤一擲 (live or die)』

<ACT> 敵一体即死

成功率：1d6で4以上

制約：パーティーLPが10点以下の時のみ。発動失敗時、自分死亡。



illustrated by 今日知ろう

【100円ダス】リスク管理カード。確実性はないが50%で敵一体を葬れる。通常は安定性のあるアタッカーとして運用できるので、入れておいて損はないカードだろう。

UC 鈴木三流 ♀



『SLGの会』

<ACT> 敵味方全員に通常攻撃
制約：L1の敵とCカードにしか
当たらない。



illustrated by 稲枝ケイジ

【100円ダス】 絶妙な使いにくさの100円UC。能力を使えばB1で無双できそうだが、それにはパーティーをUC以上で揃える必要があり、そうなった時にはどちらにしろL1相手には無双できる戦力になっているだろう。

C 忌祓南無阿弥陀仏子 ♀



『仏式悪魔祓』

<ACT> 攻撃値 11 点で敵 1 体を通常
攻撃。さらに対象を1ターン行動不能。
制約：名前に「デーモン」が付く
相手にしか効かない。

2d3
+1

4

4

3

illustrated by イト

【500円ダス】 UC並の打撃力とCブロッカー並の防御力、そして高い素早さを持つCカードとは思えない優秀カード。.....が、500円ダス。イズミ戦の後に出てきたら嬉しいようなそうでもないような。能力はレッサーデーモンを確実に葬れるという、役には立つけれど汎用性は低い微妙な代物。

UC 舞葉志姫 ♀



『グレーテストヴァンパイア』
<PAS> 死亡時、直ちに復活する。
LP 増なし。
制約：一度しか使えない。



illustrated by 珪素

【500円ダス】 UCブロッカーとしての耐久力では出鱈目やデスハールに見劣りするが、代わりに一度死んでも復活するため、戦線崩壊を避けやすくなる。復活後にもう一度殺されたら目も当てられないが.....。

R

根本 悠里

♀



『ユーリの遊び場』

<ACT> その階の生存している敵一体をランダム
召喚し味方にする。LP 増なし。召喚した
モンスターは死亡時、もしくは戦闘終了後、
モンスター山に戻る。

制約： 行動不能。 要パーティー空き枠。



Illustrated by 今日知ろう

【500円ダス】 面白いがとにかく使い辛い趣味のカード。実用的な活用法はあるのだろうか？

R ミス・メテオストーム ♀



『「空から星屑の雨が降る」』
<PAS> ターン終了時に LP 直接ダメージ 1d6-2 点。経過ターンの数だけ発動する（1 ターン目は 1 回、2 ターン目は 2 回……）。



Illustrated by 珪素

【1000円ダス】博打性の高いLP直接ダメージ能力者。長期戦になればなるほど有用だが……。バランスアタッカーとしても使えるステータスだが、1000円ダスにしては力不足か？



【1000円ダス】硬くなる以外にすることはないが、ブロッカーなのでそれだけでできれば十分だろうか。素の耐久力も他のRブロッカーと比べて遜色ない。



【1000円ダス】今回唯一のSRカード。确实性のある保健室と考えてストック枠で正座させておくのもよし、継戦能力を高めるため前線投入するもよし。自分死亡制約の魔人と相性が良い。



【1000円ダス】 唯一の解除不要転校生（になる予定）。安定したステータスと安定した能力を持つ頼れる一枚。



【1000円ダス】全魔人、全アイテム、全イベントを通して最大のLP回復力を持つカード。月読十萌と組めば継戦能力は飛躍的に上昇するだろう。ただし、回復のためにはパーティーアタックで一手消費することになる。

SUM カンケリ・アキカン ♀



『散っていった空き缶たちの恨み』
<ACT> 敵全員に純ダメージ 1d6+1 点
制約：自分死亡



illustrated by 稲枝ケイジ

【???】まさに鉄砲玉。通常の魔人ダスでは出現しないが.....?

表紙の魔人

月読十萌（つくよみともえ）

性別：女：貧乳

学年：1年

所持武器：カッターナイフ

出身校：希望崎

攻撃力：0 防御力：0 体力：3 精神力：4 FS(次元力)：18

特殊能力名『Hello,New World』 発動率：94 成功率：100

並行世界の扉を開き、死亡した味方一人を「今回のハルマゲドンに参加していない世界」の同一人物と入れ替える。

並行世界の扉がつながった時点で同一人物は記憶が共有され、肉体のみが入れ替わる形になる。

傍目から見れば生き返ったようにしか見えない。

並行世界の扉を開くためには『特異点』である場所で能力を行使する必要がある、十萌自身は開かれた並行世界へと旅立ってしまう。

彼女自身が認めた有能な人物にしかこの能力を使うことはない。

キャラクターの説明

月読家の「最異端」と呼ばれる存在。並行次元世界を自在に接続する能力を持つ。

希望崎学園オカルト研究会所属。中肉中背、ショートカットの、「あまり印象に残らない」タイプの女子。

名前が名前なので、周りのプレイヤーにより「十の萌えポイントを持つ魔人」と見做された。

一つ、料理が上手い。



二つ. 甘いもの、プリンとか好き。



三つ. 明日香ちゃんなみに健気！



四つ. 天使と呼ばれるくらい優しい。



五つ。決して報われない。



六つ。シクレだと思ったけど開放された。



七つ。カッターナイフ持ち歩いてたら、補導された。



八つ. 能力原理の矛盾を後付けで解消した気になる。



九つ. イラストつきパンツはいてる。



十. 大銀河超一郎を最強と思っている。



キャラ製作者：しお
イラスト：オツカレー







てめえこそ

ファッションパンク
だろうが クソが!



な...なんだ...?



わあ!

そうだね?

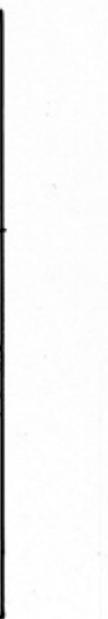
でもなぜか
目が離せない



二人とも
服は汚れまみれ
体はひよろひよろ

ムカつくぜ
くそつたれ!

道端で殴りあう
どうしようもない人間たち



自信がついたら
付属の模擬試験で
力試しだね！

しっかり学んで
しっかり身に
つけるんだぞ

丁寧な解説文で
回答後に
ポイントを押
さえられる！

勉強に疲れたら
各章の間の
コラムで息抜き！

巻末のパンク辞典など
読み物も充実！

楽しくて学べるよう
工夫されて
るんだね！

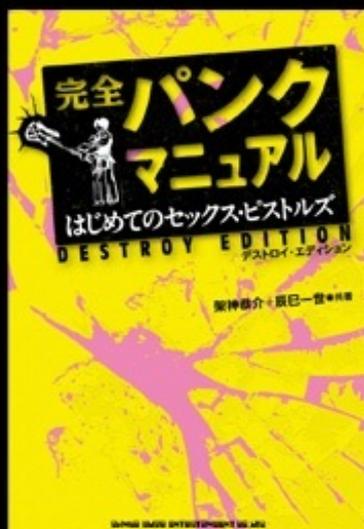
パンク辞典

目覚めたね
完全に

パンク...

ロッカーー！！



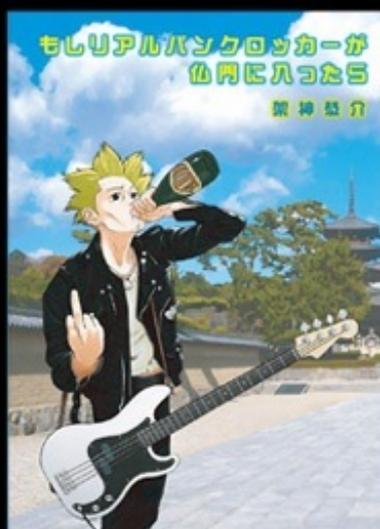


『完全パンクマニュアル』

デストロイエディション

ツバの吐き方から客の殴り方まで
懇切指導！ パンク模試、パンク
音頭、パンクすごろくに加え、
パンクカレンダーを新たに収録。
全国書店にて発売中！ ￥998

架神恭介＋辰巳一世 著
シンコーミュージック・エンタテイメント



関連書籍

『もしリアルパンクロッカーが
仏門に入ったら』

パンクロッカーのまなぶが釈迦や
龍樹、空海や日蓮と殴り合いながら
悟りを目指すゲロと求道の青春物語。

架神恭介 著 イカロス出版
全国書店にて販売中。1500 円。

月刊ダンゲロス #05 (2011年9月号)

<http://p.booklog.jp/book/34235>

「月刊ダンゲロス」は、主にpixivにてアップロードされた
二次創作小説、イラストを元に編集、創作されます。

今後、pixivにアップロードされた著作者様に
ご連絡させて頂くことがあるかもしれません。

よろしければご協力お願いいたします。

本文：架神恭介、ヌガー、やまいち、まめ、米ツト
イラスト：ダンジョン&ダンゲロスイラストレーターズ、es、オツカレー

編集：架神恭介

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/34235>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/34235>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.